

えと文

奥田武彦



そおさくノオト

私は美しいものが見たい。周りを見渡すと、美しいものや、汚いものが沢山ある。そのような中で、かつて、見たこともないものを、目に見せてみよう、絵を描く。

描けた作品を見て、判らん、いやな感じね、幼稚でしかも、形をなしてないではないか等、と人はいう。ところがこの言葉は、今の私にとって、それほど困らない。というのは、作品が奇麗に仕上がるのではなく、問題は、イメージをとらえる想像力が素直に、伸び伸びと、大きく貫かれたかどうかなのであり、それがなかなか容易ではないということなのである。

絵を鑑賞する際、上品に教養の枠内や、通念でとらえてはならない。絵には、いやに知的な空論をもてあそぶ、スノップたちをねこそぎにする要素がある。こんなことを考えながら、今日もキャンパスに向かう私である。

(女子大職員)